生徒指導課だより

－第４号－

～鹿高生が日々の振り返りをするためのエッセンス～

２０１９．１０．１５

「　ぶすの 25 箇条　」

- 笑顔がない
- お礼を言わない
- おいしいと言わない
- 目が輝いていない
- 精気がない
- いつも口がへの字の形をしている
- 自信が無い
- 希望や信念がない
- 自分がブスであることを知らない
- 声が小さくてイジケている
- 自分が最も正しいと信じ込んでいる
- グチをこぼす
- 他人をうらむ
- 責任転嫁がうまい
- いつも周囲が悪いと思っている
- 他人に嫉妬している
- 他人に尽くさない
- 他人を信じない
- 謙虚さがなく傲慢である
- 人のアドバイスや忠告を受け入れない
- 何でもないことにキズつく
- 悲観的に物事を考える
- 問題意識を持っていない
- 存在自体が周囲を暗くする
- 人生においても仕事においても意欲がない

先月、宝塚歌劇団の創設者である小林氏の言葉を紹介しました。今回はその宝塚歌劇団で張り出されている「ぶすの 25 箇条」を紹介します。

たくさんの項目がありますが、生活を振り返ると、どれも思い当たるところがあります。１日１つ意識して取り組むとおよそ一ヶ月が過ぎます。わずかな意識とわずかな変化の積み重ねが１年後の自分の成長となります。

「1 年前から取り組んでいればなぁ」と思うようなことはないでしょうか？もしもあるならば、今から積み重ねを始めていきましょう。１年後、今よりももっと魅力的に生き生きと生活している自分を想像してみてください。「**1 年後**」の「**1 年前**」は「**今**」です。

「鹿西　High light」

９月 30 日、３2H の生徒は B 棟の教室で窓を開けて授業を受けていました。授業が終わり、授業担当者は教室を出る前に窓を閉めてカーテンを束ねようとしました。そのとき、すでに全ての窓閉めとカーテンの片付けが完了していました。授業担当者曰く、「3 年生の主体性の輝きに感動しました。」とのことでした。鹿西の最上級生として自覚と責任感があり、さりげなく人に尽くす姿勢が素敵です。